KOMAZAWA JUNTENDO

# 駒澤大学1－0順天堂大学

この日唯一のゴールを決めた原
(撮影・川崎篤彦)

# 関東第2代表で大臣杯へ

2006年度 第30回 総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント 関東代表決定戦 Bブロック 代表決定戦

## 虎の子の1点守る

「勝たなければいけない試合だった」(**神原**)と言うように、勝てば総理大臣杯行きが決まる重要な一戦。相手は、一部リーグの順天堂大学。決して油断のできない相手である。降りしきる雨が止まぬままキックオフの笛が吹かれた。

立上がりから次々と攻撃を仕掛ける駒大は、前半23分**巻**の折り返しに「今日は点を決めなければならないと思っていた」と言う**原**が反応し左足でシュートを決め先制。順大の早いパス回しに対し、パスが思うように回らない時間もあったが、駒大は前線の**巻**の空中戦の強さを利用し攻撃をしかける。だが、前半のシュート数はわずか5本。1－0で前半を終えた。

後半に入り順大の左サイドをフリーにさせてしまい、攻撃されるという危機が何度かあったが、駒大も負けじと**田谷**が順大の裏をつく攻撃で順大ゴールに襲いかかる。その姿勢が攻撃陣を刺激し、前半とは打って変わって後半のシュート数は14本。先制しているにも関わらず、駒大は最後の1秒まで攻撃の手を緩めない。ゴール前に攻め込むもののシュートは得点に変わらず1－0で試合は終了した。

この日特に輝いていたのは、DF陣である。順大の3トップに対して駒大の4バックがしっかりはまっていたのだ。「人数がいても相手につききれず、カウンターで戻り切れない部分もあった」と言う**唐井**の言葉通り、カウンターで危ないシーンもあったが、それ以外ではしっかりと守っていた。駒大DF陣の固さは順大の前半2本、後半3本というシュート数からもうかがえる。前期リーグ前半は、新体制になり3バックを利用していたが、後半からは4バックに戻しDFの層が厚くなり安定したことにより、サイド攻撃がしやすくなったのだ。

いよいよ7月から大臣杯本大会が始まる。「駒大らしい戦い方をしていきたい」(**唐井**)、「優勝目指して頑張ります」(**東平**)と選手達の意気込みも十分だ。彼らが目指すものは、優勝という二文字。去年の悔しさを胸に、優勝という栄光を手に入れる為チームは1つになり、決戦の場である大阪へと乗り込む。

(木瀬由里加)